

職員研修事業

社会福祉法人あかりの家 障害者支援施設あかりの家
〒671-0122 高砂市北浜町北脇 504-1

助成事業の概要

1. 実施目的

自閉症支援の専門性を高めるために、施設に専門家を招聘し、職員の支援技術を高める研修を実施するとともに、関係者の参加も呼びかける中で、共に学び、共に専門技術を高める機会とする。

2. 実施時期

○療育研修会（第1回）2012年6月24日
（第2回）2012年11月25日

○トモニ療育研修会
2012年9月22日～23日

○事例研究会 2013年1月27日

3. 内容

○第1回療育研修会
別紙1のとおり

○第2回療育研修会
別紙2のとおり

○トモニ療育研修会
別紙3のとおり

○事例研究会
別紙4のとおり

事業の成果

(1) 自閉症者に対する理解の進展

・神奈川県からかくたつグループの片倉厚子先生を招聘して開催した「第1回、第2回療育研修会」及び、「事例研究会」においては、片倉厚子氏のアドバイスをいただきながら、自閉症者に対する基本理解を進展させるとともに、実技指導を得て、

自閉症の方に対するパニックへの対応技術を高めることができた。

・特に、多動になりがちな食事場面での対応については、焦らずゆっくりと食事を摂ることで、多動へと連動する動きを遮断することに繋がることや、多動モードに入る前には、必ずその前兆が見えており、それを見抜き、本人に意識していただくことで、多動にならずにすむ状況を作ることができ、本人がパニックに陥らなくてもすむ支援を行うことの重要性を学んだ。

(2) 職員の専門技術の向上

・食事場面での実際について、片倉厚子先生から直接的な実技指導をしていただくことで、ゆっくりと食事を摂るための支援のポイントを学ぶことができ、職員の専門技術を高めることができた。

(3) 関係者への専門療育視点の啓発

・全ての研修会をとおして、特別支援学校の先生や福祉・保育を学ぶ学生の参加を得た。特に参加者からは、「大変高度な研修であり難しかったけれども、良き自己啓発の機会であった」との評価をいただくなど、あかりの家の職員だけではなく、関係者に対しても自閉症者に対する専門療育視点のポイントを啓発する良い機会となった。

(4) 専門療育視点の広がりへの課題

・自閉症の方に対する専門療育支援については、まだまだ十分な広がりを見せているとは言い難い。将来、施設から地域社会で生活する施設利用者にとっては、社会の理解が不可欠であり、こうした研修機会を「専門家」だけの成果とはせず、広く社会に啓発することが必要であり、今後の大きな

課題であると思われた。

■ 成果の広報、公表、今後の展開

研修や事例研究会において実践を整理し、その中で自閉症理解に繋がる実践を「自閉症キーワード集」としてあかりの家ホームページに掲載し、広く公開している。

このキーワード集は、研修会等での事例報告や日常実践を片倉先生のアドバイスをいたくなかで再整理し、最終的には、三原施設長の責任の下で編集したものである。今後も、こうしたミニ事例的な実践をわかりやすい言葉で伝える努力を惜しまず継続する予定である。そのことが、自閉症者に対する社会の理解を深めることに繋がると信じているからである。